

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさとは何か、その人のありのままの言動を尊重し、その人のしたいことの実現に向け日々努力している。	事業所独自の理念があり、利用者の尊厳とその人らしさを保つことを介護の主眼としている。来訪者にも周知できるよう玄関や居間に理念を掲げている。理念にそぐわないような言動が職員に見られる時は別室において管理者が話を聴いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集まりや、小中学校の行事などに招待頂き参加させてもらっている。祭りの日は獅子舞も寄ってくれる。	小学校の運動会や音楽会に招待され出かけている。中学生の職場体験の受け入れも行っている。地域の文化祭に出品しようとポタンアート作品などを手作りしている。近所の方から野菜をいただいたり、果物を届けながらお茶を飲んで行かれる方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者を抱える家族からの相談など随時受けている。中学校の福祉体験の受け入れを行い、介護への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族からの要望を速やかに全体で話し合い要望にこたえる努力をしている。	本年度は11月に開催した。民生委員、包括支援センター保健師、家族の方数名の参加があった。年間計画実施状況と利用者の現状について報告を行なった。保健師から現状に沿った防災訓練が必要との意見もいただいている。	理念にある「地域社会とのつながり・住み慣れた地域で暮らし続けるための架け橋」を具現化するためにも開催回数増と委員に地域の方の増員を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に行われる町の事業所会議に参加しており現状の報告をし協力関係が築けるよう努力している。	町主催の介護保険事業者会議に参加し情報を得ている。地域包括支援センターからの要請で緊急入居の受け入れをしたり、地域の要請で認知症サポーター養成講座の講師を務める等、連携を心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵なし自由に入出入り出来るようにしてあり身体拘束をしないよう心がけている。	玄関は開錠してあり、鈴をつけて出入りが確認できるようにしている。車椅子から転落した方がおり、家族と相談の上、車椅子ベルトを使用している方がおられた。外出傾向の強い方には一緒に散歩をし気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場会議などで虐待について学習し虐待が見過ごされることのないよう注意をはらっている。		

グループホームコスモス松川1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加にて学習した内容を職場会議にて報告し共有している。又実際に困ったときは直接後見人の方と連絡をとり対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分に話し合いを行い理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際出来るだけ話をして些細な意見も参考にするよう心かけている。	意志表示できる利用者は3分の2ほどである。伝えることが難しい方の場合は表情・動作・性格を考慮し推測している。家族面会時には職員から積極的に声をかけ要望等を聴き介護に反映させている。生活の様子を写真にしたホーム便りを毎月発行し、家族とのコミュニケーションをとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングを重ね統一して何かを決める際には職場会議にて方向性を出し業務につなげる努力をしている。	毎月職員全体会と各職場会議を開催している。意見交換は活発に行われている。欠席の場合は会議記録を見て情報を得ている。管理者の業務が多忙なので職員自ら係を決めて、役割分担をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの希望を考慮しながらやりがいを持って働き続けることができるよう条件の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が法人内外の研修を受けることが出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は飯伊地区のGH会に参加していたが、今年度は交流できていない。コスモスの松川の3施設合同で、毎月1回、研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活ぶりをよく伺って参考にしながら安心して生活してもらえよう関わっている。入居前に通所利用をしてもらって職員との関係作りを行ってからの入居という方法もとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の今までの介護の様子などもよく伺ってお互いに協力しあう関係を築きたいという気持ちで接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーやご本人やご家族とよく相談しながら支援内容を検討し、入所後に見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の強みを見極め台所や買い物洗たくなど生活場面に生かしていけるよう援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をよくお伝えするようにして信頼関係が築けるよう接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の高齢者の集まりに参加して交流を続けている。	年に数回知人・友人の来訪のある利用者がいる。行きつけだった床屋に行く方もおり、職員が付き添っている。町内からの利用者も多く、買い物中に知人に会い話をするこももある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格をよく観察し利用者同士の関係作りを支援し仲良く生活出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向に沿える様努力している。言語能力が低下している方に対してはもきっとこんな思いではないかと思いはせ本人の反応と重ねつつ日々対応している。	思いや意向を表出できる方は半数以上で、他の方は表情・動作・性格から推測している。毎日の献立にも利用者の希望を取り入れている。集団の中ではなかなか表現できない方には居室に行き、1対1になり、聴くように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族だけでなく今までのサービス提供事業所からも情報を頂くなどして今までの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子いつもと違う言動など詳しく個人記録に記入し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングや会議にて話し合い作成し日々のケアに生かしている。家人との連絡を密にし意向に沿うものとなる様努力している。	利用者の毎日の身体状況や思いを申し送りノートに書いて、職員は必ずみるようにしている。計画作成担当者が現在1人なので、職員の意見や申し送りノートに書かれた状況や家族の意見を取り入れて計画を立てている。モニタリングは変化のあった時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌、連絡帳などを活用し情報の共有をはかり実践にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所サービスの利用はもちろんできる限り要望に応えられるよう努力している。		

グループホームコスモス松川1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店街での買い物や犬の散歩に出かけることで楽しい時間が持てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師や協力病院の医師による適切な医療の提供ができています。	かかりつけ医への受診は原則家族が付き添うことになっているが、遠方だったり家族が高齢の方も多く職員が付き添うことが多い。協力病院の医師が往診してくれることもある。同じ医療法人の医師の回診が月2回定期的にあり、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の把握を行い看護職に相談の上、受診や看護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も時々見舞い本人の様子をみたり病院関係者との治療の見通しや退院後の生活についての相談を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応同意書を交わしている。変化にあわせその都度相談しながら支援している。	法人としての「重度化した場合における対応に関する指針」があり契約時に説明されている。おおかたの方は入院を希望されており、施設内での看取りは2～3年前、1件のみ経験した。終末期に近いと思われる方がおられる時は家族と相談を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事例の検討を含め職場会議や日々のミーティングにおいて非常時の対応を各自が意識付けするようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は消防署のかたを招いてGHIに設置されている非常通報装置の作動手順の確認や防災の講話をお聞きした。	消防署職員から通報・連絡訓練の指導を受け再確認をしている。避難訓練は机上でシミュレーションをしている。2階からの避難に1階としてどのようにしたら良いか検討中である。防災係を決めて年間計画を立案しようとの動きが職員内に出てきている。	様々な災害を想定して、利用者の状況に応じた避難や誘導ができるよう、年間計画を立て訓練を実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄の介助時にプライバシーを傷つけないよう配慮している。言葉がけにも十分注意して対応している。	呼びかけは「～さん」とお呼びしている。理念に掲げているように尊厳や願いを尊重し、その人らしさを保つことができるように寄り添っている。声かけも穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が言いやすいような関係作りに努めている。せかさず返事を待つように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団ではなく居室で1人こもって読書したりといった時間を大切にしている。入院中の夫の面会に頻回に行くといった援助にも力をいれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	たんずの奥に大切に入れてあったり家人が持参してくれた服と一緒に選び季節に合ったものを着て頂く。髪や髭をきちんと整え気持ちよく生活出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを聞きなるべく意向に沿うようにしている。五平もちの味付けなどもお願いし皆で作りに一緒に楽しく食事するように心がけている。	ほとんどの方は自力摂取されている。全介助の方は1人である。トロミ食の方も1人で、他の方は軟らかめの普通食を召し上がっている。調理や片づけを手伝ってくださる方もいる。職員も一緒にテーブルで食べ、味付けや好みの食材について意見を聞いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く栄養や水分が取れるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防も考えて取り組んでいる。		

グループホームコスモス松川1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのある方にはすぐに対応する。訴えが無くても時間をみてトイレ誘導し支援している。	自立の方が2~3人おられるが、ほとんどの方は何らかの介助をうけている。排尿は1時間ごとに声をかけ誘導している。排泄記録により傾向を把握し、便秘の様子が見られる時は薬で調整することもある。失敗した場合はさりげなく自室やトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使った献立の工夫や水分を十分にとれるよう色々な飲み物を提供し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある方は無理に誘わず翌日に入ってもら。声がけの仕方やタイミングに気をくばる。入浴剤をいれて温まっていたく。	週2~3回本人の体調や希望に合わせて声かけをしている。気分の乗らない方の場合は時間や日を変えて勤め、タイミングを見計らって入浴していただいている。全介助の方が1人おられ、リフトの設置を考慮中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は休みたい時に休んで頂いている。季節に応じてエアコンを使用し希望時は電気毛布を使用する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から発行される各個人の内服薬の効能等の情報をきちんと把握し確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、裁縫、畑仕事など生活歴を大切にその方の力を引き出し生きがいを得られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	商店街へ出かけたり、地域の行事への参加など、出来るだけ外出の機会を作るようにしている。季節ごとの花を見に時期になると計画し外出している。	買い物等外出支援を心掛けているが、年々高齢になり歩行困難者が増え、ままならない状況にある。玄関前の陽だまりで外気や日差しを感じてもらおう工夫をしている。年間計画として四季の行事、桜・藤の花見、リンゴ畑、紅葉を見に行く等のドライブを立案している。	

グループホームコスモス松川1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布が手元に無いと不安を感じる方に関しては家人と相談の上、所持する額を決め財布を所持してもらっている。個人にとって必要なものに関してはなるべく一緒に買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人から荷物が届いたときには本人にも電話口に出てもらいお互いの近況を話す機会としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期の花を飾ったり、季節に合った手作りの飾り物を一緒に作ったりしている。明るく落ち着いた環境作りに努めている。	居間は広く開放的で明るい。利用者手作りの人形や和紙細工の花・ブドウを貼り付けた壁掛けが飾られている。廊下には中学生が実習に来た時一緒に作った絵が貼られていた。清潔が保たれ、気になる臭気も感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつでくつろげる居場所を作ったり玄関にもイスを置き数人が集えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り使い慣れたものを持ち込んで頂き居心地良く過ごせるよう考えている。	読書が趣味という方の居室には読書用の机と本棚があり、文学書が数冊おかれていた。生き甲斐を支えている様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のことは自分で行えているという気持ちで過ごして頂くよう、さりげなく介助するということを心がけている。		